

報 告 書

平成31年4月15日

座間市議会

議長 上 沢 本 尚 殿

基地政策特別委員会

委員長 吉 田 義 人

基地政策特別委員会で委員を派遣しました基地政策に関する事務調査（行政視察）について、別紙のとおり復命がありましたので報告します。

復 命 書

平成31年4月15日

座間市議会議長 上 沢 本 尚 殿

基地政策特別委員会委員長 吉 田 義 人
副委員長 加 藤 学
委 員 熊 切 和 人
委 員 安 海 のぞみ
委 員 松 橋 淳 郎
委 員 星 野 久美子
委 員 池 田 徳 晴

次のとおり報告します。

- 1 視察日時 平成31年3月18日（月）
- 2 視 察 先 相模原住宅地区
- 3 視察項目 基地政策に関する事務調査
- 4 概 要 別紙のとおり

平成31年3月26日

座間市議会議長

上沢 本尚 殿

基地政策特別委員会委員長

吉田 義人

視察所感

相模原住宅地区について

基地政策特別委員会の行政視察として、今回は米軍施設相模原住宅地区内にあるアーン小学校及び保育園（CDC：Child Development Center）を訪問した。相模原住宅地区は、神奈川県相模原市南区に所在する在日米陸軍の住宅施設であり、小田急相模原駅の北西にある。キャンプ座間等、近くの米軍基地に勤務する軍人、軍属及びその家族のための住宅があり、住宅地区内には、食料品等販売店、教会、劇場、消防署、小学校、保育園、浄水場等の施設が配置されている。

さて、まず初めに伺ったのは CDC である。到着すると、そこには司令官である大佐と CDC のスタッフが皆で出迎えてくださった。大変友好的な印象であり、市長をはじめとした当局との関係が大変良い関係にあることがすぐに伝わってきた。歓迎の挨拶もいただき、いよいよ CDC 内への視察開始である。

CDC 施設内はいくつかの部屋に分かれており、小学校に上がるまでの幼児が年齢ごとに分けられて生活していた。部屋の雰囲気は大変明るく、室内は清潔で家具等の角も丸く加工されており、衛生面、安全面にも配慮がなされている印象をもった。また、園庭には大きなテントが張られており、その下には沢山の遊具が配置されていたが、錆の一つもないしっかりとした遊具とプラスチック製の怪我のしにくい素材で作られた遊具が配置されていた。園庭の地面については、陸上競技場にもあるようなゴム加工がなれておりグリップが効いている。しかも驚いたのは、地面全体に少しクッションを効かせた工法を取り入れているのか、踏み込むとその部分だけ地面全体が少し沈むのには驚いた。遊具からの転落や転倒事故対策としてのものであろうが、ここまで安全性に配慮している施設は本市内の施設でも公私ともに存在しないと思う。

児童が伸び伸びと生活する様は本当に良いものであり、母国から離れているとはいえこれだけの環境が整っているのであれば預ける親も安心ではないだろうか。最後の 4～5 歳児クラスでは、日本の歌で「大きな栗の木の下で」を歌っており、その上手さに議員皆が驚いていた。スタッフの説明も大変丁寧であり、一つ一つの心あたたまる対応は、子供達の伸び伸びとした環境づくりにもつながっているものだと感じた。

次に伺ったのは、アーン小学校である。アーン小学校は本市栗原小学校との間で文化交流を行っている小学校である。アーン小学校の名は、米陸軍少佐ジョン・オー・アーンの名が由来であ

る。1960年にアーン家族はキャンプ座間に住むことになった。アーン少佐は孤児院を訪問後に孤児院のための資金活動を始めたが、1965年のクリスマスにベトナムで殺害された。その後、アーン少佐の、他人を助けることに本当の幸福が見つけれられるべきという無私の献呈が評価され、名づけられたという。

小学校の歴史としては、1951年9月に開校。当初の名称は、相模原エレメンタリースクールであり、1976年に火事によって一部消失したが同年夏には手直しが行われて運営再開し、新キャンパスは1983年に竣工した。そして同年の1983年に現在の名称に変更したのである。その後、2002年に現在の場所に移り学校運営が行われているのである。現在も米軍施設相模原住宅地区内のみならず、地区外に住んでいる米軍関係者の小学校として運営されている。

さて、このような歴史を有するアーン小学校であるが、校内施設は大変充実しており、体育館や食堂、実験室に語学教室等々様々な施設を視察することができたが、特に図書館は大変広く、蔵書数も16,253冊というボリュームであった。室内の飾りつけも日本の影響を受けての様々な工夫がなされており、またPCラボも図書室の他に2か所、生徒約400名全員が不便なくパソコンを使用でき、テーブルとタブレットが合体した電子機器も授業で使用されていた。環境面では本市よりも進んでいる印象を受けた。

このような充実した施設の中で過ごしている児童たちが、本市栗原小学校との交流を通じてどのような感想を持っているかという点は大変気になった。文化交流の感想を生徒に直に伺うことはできなかったが、学校関係者が教えてくれたのは、大変興味深くもっと交流を深め、活発に行っていきたいというものであった。

本市とキャンプ座間・米軍施設等との文化交流は、もっと積極的に進めるべきであると思う。市内に英語を交えての文化交流を行なえる環境を有する自治体は日本の中でも一部に限られているからだ。2020年に小学校5.6年生の英語が教科化される。いつまでも既存の形態にとらわれずに、このタイミングで思い切って英語圏の児童・生徒達と本格的に文化交流を実現すべきだと思う。子供達の貴重な経験は座間市の財産でもあると思う。

基地政策特別委員会に、議会に、本市に課せられた課題は、「基地との共存共栄、子供達の未来を考えた新たな道」であると思う。決定権を有する議会と執行権を有する当局が共通の認識を有することがまずは重要なのである。

平成31年 3月18日

座間市議会議長

上沢 本尚 殿

基地政策特別委員会委員

加藤 学

視察所感

相模原住宅地区について

(1) CDC (チャイルド・デベロップメント・センター) 視察について

座間キャンプ相模原市域内に所在するCDCは生後6週間から幼稚園までの幼児を対象とする保育園である。日本でいうところの認可保育園であるが国ではなく陸軍立である。軍関係者の幼児が良質な保育を受けられるように年4回の陸軍による視察、5年毎の軍の認証が義務づけられていた。施設全体の印象は広く明るく清潔であり、室内床はカーペット、外の運動場も適度に柔らかな地面で、室内から外へ出るドアには警報装置が付けられるなど、十分な安全への配慮がなされていた。各教室の入口側には「Parent info」という案内板が設置され、レッスンプラン、ガイダンス、スケジュール等の情報を保育士と親が共有している。施設の入り口には各保育士がどのような研修を受け、どのようなスキルを身に付けているのかが一目でわかるように旗に星を付けて表示していた事は保育士にとってはモチベーションを上げ、親にとっては安心に繋がるとの所感を持った。

(2) アーン小学校視察について

アーン小学校は国防総省により管轄される小学校で、4歳児を最低年とし12歳までの400名の生徒と先生、助手、管理者合わせて56名の教職員がいた。アーン小学校では本来はミドルスクールへ通う12歳も小学生として扱っている。4歳児クラスは先生と助手、他は1クラスに先生は1名、音楽、美術、体育の先生は全学年の教科を担当していた。パソコン環境も図書館でリサーチに使う他、PCラボでの授業、各教室に移動できるワゴンに数台のノートパソコンが準備され充実している。また入学前の3歳より発達障害等の支援が必要な児童へのクラスを設ける、スペイン語教室、ギフトドという「才能のある人」に向けた特別クラスを設けるなど、個人の能力や方向性に自在に対応ができるような配慮が多い。先生の勤務時間は7:50~15:00までと各先生は授業の準備に十分な時間を取っており、クラブ活動などで指導するときも書類申請が必須でサービス残業の感覚は無い。先生が十分な授業準備に時間を掛けられるように配慮されているとの所感を持った。

平成31年4月1日

座間市議会議長

上沢 本尚 殿

基地政策特別委員会委員

熊 切 和 人

視察所感

相模原住宅地区について

Child Development Center とアーン小学校を視察させていただいた。CDC とアーン小学校の視察前に、相模原住宅地区を、見学したが、家の立地、道の広さ、公園の多さ等、住環境が大変良い印象を受けた。また、視察前に、大佐の挨拶を受け、大佐から遠藤市長の話等を伺い、座間市と良好な関係が築けているとの印象も受けた。

教育施設（CDC,アーン小学校）の視察では、見学前のセキュリティーチェックもしっかりしており、施設内では天井が高く、広々とし、また、明るく清潔感もあり、教育環境が充実している。

アーン小学校には、日本文化を学ぶ、和室やそろばん等の施設もあり、大変素晴らしい教育施設だと思った。

平成31年3月27日

座間市議会議長

上沢 本尚 殿

基地政策特別委員会委員

安海 のぞみ

視察所感

相模原住宅地区について

近年、在日米軍基地及び基地関係者との交流というものへの取り組みがなされる様になり、本市においても市立小学校と基地内のアメリカンスクールの交流が行われている。それが今回視察させて頂いたアーン小学校である。

視察時はいわゆる放課後で、一部の児童が残るのみであったが、各教室の説明等から駐留国の文化や習慣にも配慮のなされた教育環境である事を垣間見ることが出来た。ブリーフィングを受けた図書室はカラフルでアメリカンな設えにお国柄とは言え、担当しておられる司書の先生の工夫の為せる所かと子どもならずともワクワク感満載であった。

在日米軍人の平均駐留期間は5年程とのことだそうである。その間に教育期間にある家族が豊かで安全な教育環境のもと本国と変わることなく、加えて駐留国に関しての学びの場にアーン小学校がなっていると認識した。またそのような場に本市の小学生が訪問させていただき交流することの意義も合わせて再認識した。国の安全保障についての考えかたは様々に異なるがその中であって、子どもたちが直に触れ合って交流することはそれだからこそ意義があると考ええる。そこから子どもたちが将来、安全保障や防衛というものを考える時、アーン小学校との交流体験が少なからず生かされることを期待するものである。

追記 あわせて視察させていただいた基地内保育施設 Child Development Center においても見学とご説明を頂き、そのうえアメリカ水と手作りブラウニーを頂戴した。文字通り good neighbors を感じさせられる訪問であった。

平成31年4月1日

座間市議会議長

上沢 本尚 殿

基地政策特別委員会委員

松橋 淳郎

視察所感

相模原住宅地区について

2019年3月18日、在日アメリカ陸軍「相模原住宅地区」の視察にあたり、この住宅地の歴史について事前調査をすることから始めてみた。この「相模原住宅地区」は、面積約595,000㎡（東京ドーム約13個分）。土地面積の内訳は、国有地、約85%。市有地、約1%。私有地、約14%となっており、現在、在日アメリカ陸軍基地管理本部（United States Army Garrison-Japan）が管理をしている。小田急相模原駅北西に位置するこの施設は、1939年（昭和14年）大日本帝国陸軍（東部88部隊）が東京中野から移転し、その後、敗戦を迎え1950年（昭和25年）米軍が接收し住宅専用地区の歴史がはじまった。

現在、キャンプ座間をはじめ、近くのアメリカ軍基地に勤務する軍人、軍属およびその家族が移住している。

到着するとゲートでは、厳重な身元確認が行われ、エスコートの案内で、住宅地区の隅から隅までマイクロバスにて巡回した。想像していたより小さな地区でひとけも少ない印象を感じた。

住宅地区には、食料品等販売店、教会、劇場、消防署などの施設があり、まず初めに、CDC(Child Development Center) 保育園&児童所を訪問。クラスは、2歳以下の育児、キンダガーデン、プレスクールと別れており、学校が終わったあと児童を預かる児童ホーム（学童）のようなものであるが、日本の児童ホームと違うのは、敷地面積に対して、児童数がとても少ないのに驚かされる。アメリカでも少子化現象が起きているのかと思いがちであるが、米軍施設で勤務している友人（スクールバス運転手）いわく、米海軍厚木基地空母艦載機の山口県岩国への移駐にともない、子供数が激減したとの事である。

CDCの視察後、目と鼻の先にあるJhon O Arnn Elementarry School（ジョン O アーン小学校）を訪問。この小学校は、議会でも座間市内の栗原小学校との交流が話題になっている学校である。主な交流目的は文化交流であるが、小学校の廊下を歩くだけでも文化の違いが見受けられ面白い！まず、はじめに、入り口では、日本の小学校ではほとんど上履きに履き替えるが、アメリカでは、そのまま。日本の小学校では、昼食は、教室で机を囲み皆で食べるが、アメリカではカフェテリアと

呼ばれるスペースで自由気ままに食事をする。授業の在り方については、日本では、みんなで足並みをそろえて授業を進めていくが、アメリカでは、学校の推薦などで「飛び級制度」が存在している。

廊下を歩いていると、子供ではなく大人の清掃員が廊下や研究室を掃除していました！これもアメリカンスタイル。

今回の視察では、見聞を広め、良いところを受け入れ、平凡なものはスルーといった考えを持つためにも、大変、意義のある視察となりました。

座間市の子供たちには、基地と共に歩む環境を活用し、何かを肌で感じてくれればと願う。

活用できるものはすべて活用していく、そんな環境づくりを大人がしなければならない。

平成31年4月2日

座間市議会議長

上沢 本尚 殿

基地政策特別委員会委員

星野 久美子

視察所感

相模原住宅地区について

3月18日に行った視察についての所感を記します。

1) CDC 保育園について

CDC=Child Development Center という名前から考えると、保育園というより幼稚園により近いと思われるが、概要を見てみると「6週間の乳児から6歳児まで」とあり、保育園と幼稚園、そして学童保育の機能を兼ね備えた施設であると伺われます。

ここでの視察は、いくつかのクラスや園庭を見せていただいたが、すべてが「ゆっくり、ゆったりとした」という印象でした。

年少時のクラス前の廊下には子どもの写真がたくさん貼られており、保護者とのコミュニケーションツールになっているのだろうと感じました。

学童保育のクラスだったのでしょうか、子ども達が日本語で「大きな栗の木の下で」を歌って歓迎してくれました。

2) アーン小学校について

CDC 保育園の時もそうでしたが、来訪者は胸などに来訪者だとはっきりわかる「シール」をつけます。セキュリティのためでもあるのですが、子ども達に「外部からの人々」であることが理解できるようにしているであろうと考察しました。

学校内部は、広い。日本の学校に比べると広く作られていると感じました。

最初に通された図書館には、蔵書が16,000冊以上あるということや、パソコンなどが学べるスペースがあること、スペイン語や日本語のクラスがあることも説明されました。また、学校では児童が読書することに力を入れているようで、廊下には読んだ冊数や読んだその本にある「単語数」による児童のランキングが写真付きで貼りだされていました。写真が貼りだされることはきっと子供たちには大きな励みになるのでしょう。

カフェテリアを見学させてもらって驚いたのは、講堂（いわゆる日本の学校の体育館のステージのある施設）がかねそなえられていたことで、体育館は体育館としてのみの使用になっているようだったことです。

もう一つ印象的だったことは「Gifted class」という、特別な才能を持った子どものクラスがあるということ。普通級で学びながら、「Gifted class」でその才能も伸ばしていくということだと理解しました。今回、どのような才能のある子どもがいるのかを聞くことはしませんでした。子どもをひとくくりに考えずに、個性を伸ばすことに力を注いでいる姿勢は、素晴らしいと感じました。視察当日にはわかりませんでしたが、後日知った概要によれば、各学年の年齢は

4歳児クラス（プリK）：9月1日までに4歳になる子

幼稚園：9月1日までに5歳になる子

1年生：9月1日までに6歳になる子

2-6年生：年齢ではなく条件に当てはまる子

となっており、2年生以上は飛び級もあるのだろうと考えられますが、それも個性・才能を伸ばすことの一環であろうと考えます。

そして、一学級の児童数は日本の学校に比べるとはるかに少ないようでしたが、はっきりと訊くことはできませんでした。また、教員の仕事量もはるかに違うようで、校長は、日本の教員は残業が非常に多いと聞いて驚いていました。

- 米国と日本の教育環境は大きな違いがあると知った視察でした。内外の教育環境の良い点を取り入れ、子ども達の未来がもっと輝くものになるようにしていきたいと強く感じました。

今回の視察は時間も少なく、学校すべてを観ることはできませんでしたが、機会があればもう少し深く見て学んでみたいと感じました。

平成31年4月10日

座間市議会議長

上沢 本尚 殿

基地政策特別委員会委員

池 田 徳 晴

視察所感

相模原住宅地区について

2019年3月18日、キャンプ座間相模原住宅地区にある CDC 保育園およびアーン小学校を視察しました。

1. CDC 保育園の視察

1) 視察の冒頭、大佐より歓迎のご挨拶を頂いた。我々座間市議員視察団に対し誠に丁寧な内容姿勢のご挨拶を頂き、とても歓迎されているとの印象を持ちました。

これを機会にこれからもお互い理解し合えるよう交流を図りましょうとのことであり、今後、座間市幼児教育の充実のためにも大いに参考すべきと考えます。

2) 通常70名の園児が在籍しているとのことであったが、視察時においては時間が遅かったせいか園児が数名いるだけであり園児の行動などがほとんど見られなかったのは残念でした。

3) 施設については、広々とした環境の園児室や園庭には安全を重要視したやわらかい床、備品などにはすべて園児がぶつかっても怪我をしないような保護具でカバーされ、備品の陰で見えないスペースが生じないように天井には凹面鏡を設置、出入り口の扉には施錠はもとよりブザーを設置するなど用意周到に園児の安全を確保する対策が施されていることは見習うべきと感じました。

4) 相模原市の幼稚園とは年間10回程の交流があるとのことであるが、座間市においても異文化交流をぜひ行って頂きたいと感じました。

特に、幼少時に異文化に接し交流の機会があることは貴重な経験となることは間違いのないことと思います。

2. アーン小学校の視察

1) 学校長より歓迎のご挨拶を頂きました。CDC 保育園の視察時同様に暖かいご挨拶を頂きました。

2) 全児童数が約400人とのことであったが時間が遅かったせいか児童の姿は体育館で遊んでいた児童が数名いただけで下校したせいかほとんど見えませんでした。

図書室を中心に学校長よりご説明を頂きました。

図書の充実、電子化等の説明がありましたが、やはり何といたっても座間市の児童との交流内容を今後もより一層充実していただき、座間市と米側の児童が相互理解を深めそして国際感覚を磨くことが出来る環境を私たちが構築しなければならないと感じました。

以上